

前回、「子どもたちはふさわしい環境におかれ、また、自由に活動することにより、子どもの内面の方向付け（内的欲求）に従って、自分を発揮させていくのです」ということをお伝えしました。

今回はふさわしい環境と、自由に活動するという点について、もう少し詳しくお話ししたいと思います。

★自由の解釈は時々こんなふうに誤解されます。

- 自分勝手
- わがまま
- やりっぱなし
- 放任

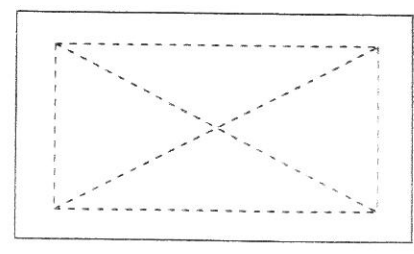
☆自由に活動するというのは、無配慮な環境の中で、目茶苦茶な活動をするものではありません。本当の自由は規律（制約）と一体になっています。自由に活動するためには、ふさわしい環境が用意されなければなりません。

<ふさわしい環境とは>

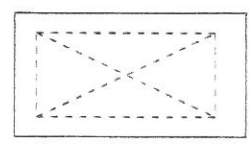
☆環境構成のポイント

- ① 秩序があること→出したら必ず元の所に返せるように、用具は子どもが使いやすい大きさのものにする。

例) 清心幼稚園では、子どもたちの使うぞうきんは子どもサイズにしています。掃除道具一つとっても、子どもの小さな手がちょうど持ちやすいサイズの雑巾、ばけつ、ちりとりなどを子どもの見える場所におくことで子どもが自ら掃除道具をとりにいき、きれいに掃除します。



(普通のぞうきん)



(子どもサイズのぞうきん)

私を使って!!

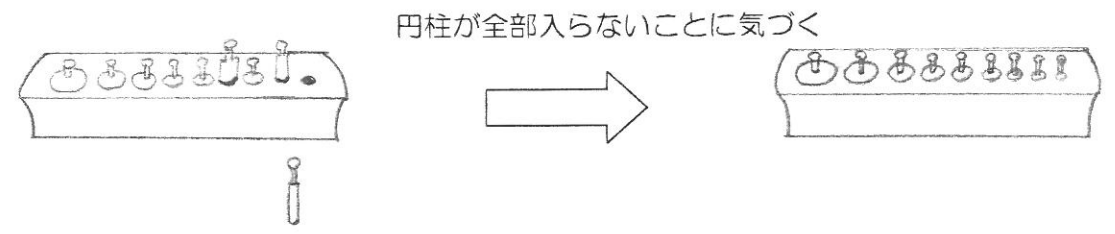


- ② 美しいこと（色彩、形など魅力的であること）
 子どもが「きれい!!さわりたい!!」という気持ちになります。
 例) 清心幼稚園では、ピンク、黄色、紫、水色のエプロンをお当番さんが使っています。

- ③ その子の成長に必要なものがすべて一定の分量で揃っていること
 <どれだけが適当かを個々の関わりながらさがしていく。>

- ④ 誤り訂正が自分でできるように
 教具は自分の理解、操作に誤りがあれば自分で気づくことができるように工夫されています。
 他人に指摘されないぶん、子どものプライドを傷つけなくてもすみます。
 道徳的にも、人に言われて直すのではなく、自分で気づいて直せる人に育ちます。

例) 円柱さし



- ⑤ できるだけ本物であること
 本物の持つ美しさは、子どもの活動を誘います。
 例) 清心幼稚園では、料理活動や野菜切りの活動で、子ども用の包丁を使います。
 昼食の時には、コップではなく本物のお湯のみを使います。大切に扱うようになります。
 ※これらの条件を満たしている環境が、モンテッソーリ園の特徴、魅力と言えます。

教具の紹介

一つずつ、丁寧に運んだり、順にならべたり、するうちに、筋肉のトレーニングとともに、太さの弁別や、秩序感が体得できるようになっています。
 教具はどれも10の数で成り立ち、筋肉はいつも10の数を体験します。

茶色の階段

